

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市農芸高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向けて、情報共有と意思疎通を図ることができる教職員 ○生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立</p> <p>&lt;地域住民&gt; 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信</p> <p>&lt;地域住民&gt; 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施</p> <p>&lt;同窓会&gt; 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成</p> <p>&lt;大学等や産業界&gt; 有能な人材育成への期待</p>	<p>&lt;保護者&gt; 本校教育活動への理解と協力、特に家庭でのしつけについて</p> <p>&lt;地域住民&gt; 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用</p> <p>&lt;同窓会&gt; 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓</p> <p>&lt;大学等や産業界&gt; 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の様々な事業を有効活用することで、専門教育の充実に繋がっている。</li> <li>・ 地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点からも有効である。地域連携の取組が、地域住民に十分に浸透していない部分もあるので、今後もマスコミ等を有効に活用して、PRすべきである。</li> <li>・ 基礎学力の向上を含め、本校で学んだことが、卒業後にどのように活かされているのかを知り、これからの教育活動を充実させていく必要がある。</li> <li>・ 中学卒業生の減少に対応した系、学科、コース体制の見直しによる新しい専門高校の魅力づくりを検討する必要がある。</li> <li>・ 本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化をさらに高めるために、教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。</li> <li>・ 校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。</li> <li>・ 農業教育、家庭科教育をすすめる上で、校内施設設備の充実が急務である。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。</li> <li>・ 業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のスペシャリストの育成と地域連携やインターンシップ等の活用を通して、より実践的な学習活動を展開する。</li> <li>・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。</li> <li>・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学卒業生の減少傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある学校づくりに務めるとともに、学校の将来構想・展望に関する検討を進める。</li> <li>・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。</li> <li>・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。</li> <li>・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を充実し基礎学力の向上を目指すと共に欠席遅刻を減らす。</li> <li>・高い目標を持たせ積極的に資格取得を奨励する。</li> <li>・生徒一人ひとりが納得いくコース選択を目指す</li> <li>・多面的な学習指導を実施するために図書館を活用する</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力診断テスト、基礎学力テスト（10回以上）、進路模試、習熟度による補習実施及び皆出席60%以上等を実現する。</li> <li>○生徒が納得するコース選択のため、各学科・コースと連携して説明会や学年通信等を発行する。</li> <li>○授業を充実させ、最大限の授業変更の努力をし、自習時間を減らす</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○成績不振による原級留置者をゼロにする</li> <li>○検定合格・資格取得者数のべ1450名（1人2つ以上）</li> <li>○図書館を活用した授業50時間以上、生徒一人あたりの貸し出し冊数5冊以上</li> </ul>	<p>自習回数13回（昨年度58回）を極力減らし、保護者等を対象とした授業公開（2日間）を初めて実現するなど、授業の充実と内容の改善に努めた。</p> <p>農業および家庭教育の中心校として検定合格・資格取得のべ1676名</p> <p>図書貸し出し5.5冊など各種コンクールに取り組んだ（全国産振研究文家庭科入賞・全国農ク5名入賞）また各学年独自の指導として基礎学力テスト実施、学級通信の発行、マナー向上への取組などを実施した。また成績不振者や長期の欠席者等に対する支援が求められる。</p>	
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に対する意識を高め、挨拶の励行と生活マナーの向上を図り、一人一人の進路実現に向けた指導に取り組む</li> <li>・企業との連携を深め就職先の安定確保に努める</li> <li>・専門性を活かした進学指導を強化する</li> <li>・中学生やその保護者にとって将来の進路を考えたとき、本校に入学したいと思える出口対策に努める</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1学年－勤労観を育み自己理解を深める指導を行う</li> <li>○2学年－総合的な学習の時間を通し、自己の実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、進路の意思決定ができることを目指す</li> <li>○3学年－進路決定に向け学年と協力し進路未決定者ゼロを目指す</li> </ul>	<p>国公立大複数合格等、生徒の進路目標の実現に一定の成果があった。難関大学への目標は生徒の希望が少なく達成はできなかった。</p> <p>3年生希望者全員の就職が実現したが一次試験不採用者が5%となり面接練習などさらなる強化が必要である。</p> <p>学力の定着が進路指導のポイントという視点で1学年より基礎学力テスト等の取り組みを実施</p>	

	<p>○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者への早期からの指導を行う</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>○1年の進路講話を4回以上実施</p> <p>○各学年進路希望調査を年2回実施 2・3年生は1回以上の個人面談実施</p> <p>○進路広報誌「あすなる」を1年3回2年5回3年8回以上発行</p> <p>○学年、学科と連携し150社以上の企業訪問を行う。生徒は3社以上の企業見学実施 ○3年校外模試を3回実施</p> <p>○国公立・難関私立大学への合格者10名を目指す</p>	<p>(1 学年 合格率 68～91%とばらつきあり 2 学年 88%程度)</p> <p>今後は、生徒に対応する時間や空間を確保し、効率的な進路指導心がけるとともに、保護者、生徒、担任の懇談をより密にするよう心がけたい。</p> <p>就職率62% 四年制大学9% 短期大学6% 専門学校22%</p>
<p>生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な校内美化指導、環境教育を指導する</li> <li>・担任と生徒指導部の連携強化を図る</li> <li>・組織的な生活指導を通じて生徒の問題行動の抑止を図る</li> <li>・日常の挨拶の徹底と、生活マナーの大切さを指導する</li> <li>・部活動や学校行事への積極的な参加を促す</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>○月例の生活点検を実施する</p> <p>○毎日の登校指導等を通じて挨拶の励行を図る</p> <p>○環境デー、校外清掃ボランティア等を実施する</p> <p>○部活動を充実させる。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>○月例生活点検合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す</p> <p>○全教員の100%が生徒に対しての声掛けが出来ていると感ずることを目指す</p> <p>○全生徒・教職員の80%以上が挨拶は出来ていると感ずることを目指す</p> <p>○全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感ずることを目指す</p> <p>○生徒会行事を良かったと感ずる生徒が85%以上</p> <p>○クラブ加入率70%以上</p> <p>○環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の70%以上</p>	<p>校内美化や環境教育は ISO 認証校でもあり安定した実績がある。生徒の問題行動等は件数が減少し、生活点検も昨年度より5ポイント向上した。ただし日常の欠席や学校不適應の生徒を指導する課題が残る。また挨拶や言葉遣いなど、生徒の課題もあるが職員が率先垂範し指導する必要がある。新たな、課題として SNS 等の問題、三無い運動の見直しなど、従来の生徒指導の観点が変わりつつあるため校則の見直しなども行う時期である。</p> <p>学年での指導として、挨拶、部活動の推奨、遅刻防止、マナー向上など具体的な目標を設定し、生徒との距離が近いこともあり、目標に近い達成ができたが、部活動加入率が低迷しつつあることが課題のひとつである。</p>

<p style="text-align: center;">農業 教育の 充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目における資格を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る</li> <li>・農業教育を充実させ、関連分野への興味関心の向上を図る</li> <li>・農業クラブ活動を充実させる</li> <li>・専門性を活かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る</li> <li>・農業教育の推進のため適切な施設設備の活用、更新を図る</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門教科を通じて、資格取得講座の開設及び指導を行う</li> <li>○インターンシップ、ファームステイ等への取り組みを促し、農業関連分野へ興味関心を深める</li> <li>○生徒の安全を第一とした実習・実験を行い、GAPについての取組を学校農場を通じて推進する</li> <li>○生徒の希望に応じたコース決定指導を行い、ガイダンス、面接等でミスマッチの無いよう配慮する</li> <li>○老朽化した施設設備の改修と予算化を要請、計画実施する</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推奨する資格取得者、延べ300名以上、職業教育顕彰30名以上 アグリマイスター顕彰25名以上、農業クラブ競技会（県大会で最優秀4つ以上、東海大会優秀賞を2つ以上、全国大会優秀賞4つ以上）</li> <li>○GAP認証への取り組みを推進し、2つ以上の認証取得と生徒の80%以上が周知</li> <li>○コース選択満足度100%、学習環境での生徒満足度90%を目標とし、学習環境を整え、生徒満足度90%を目標とする</li> <li>○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に行い、地域に根ざした学校づくりを行う</li> </ul>	<p>資格取得については昨年度より大幅に増加し、取得総数732を達成し、中でも職業顕彰20名、アグリマイスター25名など高いレベルで推移しており専門科目の充実が顕著である指標としたい。農業の専門性として、Ggap、Agapなどに取り組むだけでなく、MPS、HACCPなど国際的な認証を得られる農業教育を総合的に目指しており、今後の進展が期待できる。</p> <p>各種イベントに積極的に参加し、地域に根ざし開かれた農業教育の充実をより進めていくだけでなく、教職員の働き方改革を含めた活動としてより生徒のためになる活動とする。</p> <p>来年度以降、三重県全体の農業教育の見直しを図る時期にきており、四日市農芸高の農業教育の転換点にさしかかっている。生徒のコース選択満足度や、学習環境での満足度がそれぞれ達成は困難であることも含めて、改善に努めたい。</p>
<p style="text-align: center;">家庭科 教育の充 実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導するとともに、家庭クラブ員としての自覚を持たせ、生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行う。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う</li> <li>○教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより充実させ、授業に還元する。</li> <li>○専門科目における資格取得を勧め、上級の資格取得に取り組む</li> <li>○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、社会マナーの充実を図る</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭クラブ活動の充実度90%以上、資格取得者数延べ800名以上を目指す</li> <li>○社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、2年生に対して1回以上、3年生に対して2回以上、持つ</li> <li>○地域連携参加生徒の満足度90%以上を目指す</li> <li>○将来の進路希望を固めることのできた者90%以上を目指す</li> </ul>	<p>教職員の自己研鑽の充実(各種講座、研修会への参加)の成果もあり、生徒の各種コンクールでの入賞が顕著であった。家庭科教育の基本である家庭クラブ活動も97%の充実度、資格取得も907名を実現し、生徒の学習活動は目標達成ができた。</p> <p>また、新たな取り組みとしてHUGを取り入れ、スクールプロジェクトへの取り組みを進めることができた。進路指導においても、インターンシップや外部講師の導入など地域との連携を深めることで充実している。今後も継続して指導を進めていきたい。</p>

<p>人権教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する</li> <li>・校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する</li> </ul>	<p>人権委員会を計画的に実施し情報共有と生徒の人権意識の向上に努めた。PTA や地域と連携し、人権研修や講演会を実施し職員及び生徒の人権意識と知識の充実を図った。</p>	
----------------	---	--	--

改善課題

安定した生徒募集、教職員の教育意識が高く、比較的チームワークも良く、アンケートによる満足度・充実度から日々の教育活動は充実している。反面、進学指導、教育活動の改革、新たな教育課題への取組等へのスタートが遅れ気味である。特に新カリキュラムへの準備や、少子化に伴う入学定員減少への対応など課題は山積である。今後3年間の研究や取組が、農芸高校の将来を決めるはずであり、生徒や地域に今後も期待され支持される学校とするための改善が必要である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい環境づくり	<p>総勤務時間の縮減に向けて、働き方改革に取り組み、働きやすい環境をつくる。</p> <p>【成果指標】〔平成30年度比較、( )内は平成30年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○月80時間を超える時間外労働者の年間延べ人数を50%削減(92人/年)</li> <li>○時間外労働を月2時間削減(35.6時間/月)</li> <li>○休暇取得を年0.5日増加(20.3日/年)</li> </ul> <p>【活動指標】〔平成30年度比較、( )内は平成30年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定時退校日を定期考査期間中とし、定時に退校できる職員の割合85%を目指す。(48.8%)</li> <li>○部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。(98%)</li> <li>○放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合85%を目指す。(63.4%)</li> </ul>	<p>機械警備の導入で17時以降の電話対応等がなくなり、時間外労働時間の一部短縮ができたが、部活動をはじめとする生徒対応、雑務が減少することがないため目標達成は困難である。</p> <p>定時退校日、部活動休養日等職員の過重労働の軽減策を継続して続けていく。</p> <p>会議の精選と短縮は今後も徹底してだけでなく、職務の整理を目指したい。</p>	
開かれた学校作りと組織運営の充実、情報提供による信頼の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等、校外から参加する催しの企画運営を見直す。</li> <li>・HPの効果的な運用を検討し、最新の情報を発信する</li> <li>・文書及びHP、絆ネットによりPTA行事や保護者公開の学校行事などの紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める</li> <li>・PTA理事会を充実させ、PTA行事の改善を図る。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電子掲示板を活用し、情報提供に努め、毎日運用する</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等の参加者の満足度90%以上</li> <li>○HPの更新月3回以上</li> </ul>	<p>PTA活動、地域連携活動など農芸高校特有の連携活動は今年度も活発であり、地域や保護者に好評をいただいた。反面、過重労働につながりかねない面もあり、来年度も引き続き企画運営を見直したい。</p> <p>またHP等の更新(年間30回以上)や、学校説明会の目標(満足度90以上)は達成し、今後も情報発信を続けていきたい。</p>	

<p>環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育で「育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する</li> <li>・地域とのコミュニケーション活動を推進する</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内の委員会に位置づけ組織的に取り組む</li> <li>○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し全職員で共有する</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し期間中に全教職員が各々の授業で環境教育を実践する</li> <li>○地域清掃活動を実施する</li> <li>○全職員協力のもと、ISO14001再認証審査をうけ、環境マネジメントシステムを維持する</li> </ul>	<p>平成14年度から継続しているISO14001認証により、教職員ならびに生徒への周知がされており、環境週間、環境月間を通じてゴミの分別、リサイクルへの意識などが実践されている。</p> <p>また、農芸祭や各種イベントにおいても来場者、保護者などにも理解を求めるよう努めた。</p> <p>今年度、学校の老朽化も原因であろうが、水道水の漏水が判明し、対策が急務である。</p>	
<p>危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全安心を守る取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を実施し、いざという時に備えられる組織運営を目指す。</li> <li>・生徒の各種検診を充実させる</li> <li>・情報共有を充実させ、保健室利用、学校生活において気になる生徒など担任、学年、分掌との情報交換・共有を密にし、迅速な対応連携する</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じてスクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築する</li> <li>○再検査等の連絡及びその診断結果の回収を確実に行う</li> <li>○保健部研究会等を充実させる</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年2回の防災訓練を実施する</li> <li>○内科検診、胸部X線、心臓検診、検尿等の受診率100%を目指す</li> <li>○再検査の連絡等は100%実施する</li> <li>○AED講習(職員対象5月：生徒対象7月)を2回実施する</li> <li>○性教育講座(1学年対象7月)を実施する。</li> <li>○保健教育にかかる掲示や保健便り(学期2回:保健委員作成)の発行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健部研究会での発表(2学期末)。</li> </ul> </li> <li>○食育・食生活指導:農芸祭での食品調理説明会を実施する</li> </ul>	<p>生徒及び教職員の健康診断受診率100%、AED講習2回実施(5/22、7/4)など生徒と教職員の健康安全に対する対応は実現した。生徒によるHUG(家庭クラブ等)の講習会、地域連携の避難訓練など危機管理に関する安全教育の徹底がはかれた。</p> <p>またスクールカウンセラーや発達障がい支援員を積極的に活用し、生徒だけでなく、保護者や教職員に対するケアを実施した。</p> <p>生徒による保健便り発行や、学校保健委員会が開催できなかったのは残念である。</p> <p>年度末において新型コロナウイルスの影響があり、その対策について、考えられる対策を実施できた。</p> <p>調理説明会。性教育講座などは計画通り実施完了</p>	

改善課題

学校説明会、農芸祭、地域連携防災訓練、HUG、マコモ栽培、ISOの取組など多くの学校行事を開放連携し、開かれた学校として地域や保護者から信頼を得ている。この信頼感を今後も継続していきたい。しかし反面、高校の本来の学習活動への評価、生徒個人の進路実現、部活動など生徒の自主活動の実践などの伸びがやや停滞している。また年々個々の生徒をサポートする必要度が増加しており、過重労働の原因の一つとしてもあげられる。できることなら限られた教職員の人材資源を、本来の目的である生徒の成長や自己実現の支援などに集中させ、教育の本質を見極めた教育改善に努めていきたい。

## 5 学校関係者評価

明らかになった  
改善課題と次への取組方向

教育活動として、様々な連携や協力により、地域から信頼されている学校だと自負している。しかし行事等が教職員の負担になっていることは否めず、多忙化の原因のひとつになっている。生徒の満足度が高い現在、その数値を維持しつつ、より効率的な学校運営を実施する必要がある。保護者や地域の方々との情報交換を継続しながら、改革を進めていきたい。

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

学習指導要領の変革と少子化に伴う募集定数の減少が緊急の課題であり、今年度よりプロジェクト会議を設定している。来年度の答申に向けて準備をしているが、中学校からのニーズがあることが支えであり期待を裏切らない継続した教育活動を計画実践する予定である。

学校運営についての改善策

学科の見直しなどの課題に対応するためには、教職員の定数や組織を再編し効率的な学校運営が必要である。ITや学校外の人材活用（SC、SSW等）、校内組織の改革などに取り組む。具体的には、教諭、及び実習助手の分掌配置、部活動の縮小や顧問の再編成などに取り組んでいきたい。